

委員会報告

総務文教常任委員会

(決算認定における主な質疑・応答)

問 地籍調査の関係で、鬼舞・鬼伏地区の計画から完了までの年度と、現在何年目に入っていて進捗率はどれくらいなのか。

答 鬼舞、鬼伏地区は、平成20年度から着手し、平成26年度完了を予定している。進捗率については、現在、50%である。

問 小・中学校での情報教育で、多額の教育用コンピュータ等の備品を購入しているが、教育の効果として、どのような成果が見られるのか。

答 昨年度から電子黒板が市内の学校にも配備されて、教職員の研修が昨年度からようやくスタートしたという段階である。その効果、成果がどのような形で、子どもたちに身に付くのかというところも、授業協議の中で、検証を少しずつ進めていきたいと考えている。

問 警報器の補助事業がありながらも設置がなかなか進まないというところで、どのように進捗を図っていくのか。

答 補助事業実施以前の2割弱、この補助事業で約2割の世帯の方、それから水面下で、この事業スタート前に共同購入した2割、これらを合わせた約6割が設置済みと理解している。残りの設置率アップのためには、この補助事業は終了したが、継

続して、設置推進に努めているところであり、防災フェア等により、市民に訴えていきたいと考えている。

(補正予算における主な質疑・応答)

問 まちづくりパワーアップ事業補助金300万円の追加について具体的なものは何か。

答 能生の市民グループが提案している健康講演会、根知谷音楽祭、上路で計画中のハード整備事業、ジオパークの詩吟集の作製、マリンドリーム周辺の植栽、「うまいもん会」が主催する秋のイベントである甘エビフェアなどが主なものである。

問 相馬御風宅の保存の計画委託料が、県との協議が不調になって減額ということであるが、その内容は何か。

答 どういう改修が必要かという調査を含めて、22年度に計画を策定するというところで、打合せをしてきたが、県の補助金が見込めないということで、次年度に、その策定を送りたいということである。

(閉会・休会中の所管事項調査項目)

8月9日(月)

■ 教育委員会関係施設整備について
■ 財政運営の基礎的調査について

9月10日(金)

■ 行政改革について

建設産業常任委員会

(決算認定における主な質疑・応答)

問 労働諸費の人材育成支援事業について、受験者数、合格者数はどうか。また、職業訓練校は、生徒数が少なく、運営が危ぶまれていたと聞いたが、実態はどうなっているか。

答 資格受験は4百数十件で推移している。合格者については報告義務を課していないが、次年度の申請から推察して合格していると考えている。

問 職業訓練校の生徒数は、平成18年は7人、19年は5人、20年は5人、21年は6人、平成22年は10人であるが、職業能力開発法による高等職業訓練校にかかわる国庫補助の基準人数は5人で、ぎりぎりのところで推移している。

問 並行在来線対策事業、新潟県開業準備協議会負担金について、どのように使われて、今までこの会全体にはいくらか使ってきたのか。

答 平成14年から並行在来線の関係で3市と新潟県で負担割合を決めて、並行在来線準備協議会の中で支出している。21年度事業では各委員会の開催費用、経営計画等の調査費に使われており、22年度を含めて総額1578万3000円が当市から支出されている。3市と県の支出総額は、1億4577万7000円である。

(補正予算における主な質疑・応答)

問 農業振興費の地域水田農業推進事業の米穀需給調整推進事業補助金で、今回は生産調整の一環としてあがっているが、今年の夏の日照り等の被害状況はどうなっているか。

答 9月6日現在では、高倉、徳合、仙納、大洞、藤崎、中野口などの集落で、約7.9ヘクタールで水稲の立ち枯れ等の被害があり、その他に糸魚川地域では西塚、東塚で、2ヘクタールほどで、水稲の一部立ち枯れが認められた。

問 烏帽子の里の火災原因は明確になつたのか。この施設に火災保険は掛けられていたのか。今後の再建計画について地元とどのように話し合っているのか。

答 火災原因については、警察の調べでは原因不明という発表であるが、コンセントの部分にごみ等が引っ掛かって火事が発生したとの推測もある。保険は市の財産の保険に入っており現在査定中である。今後この建物をどうするかによって査定額が変わってくることから、建物をそのまま復元するのか、取り壊して終わるのかによって保険の査定の範囲が違ってくる。跡地利用等も含め地元と担当課で、推移を見ながら詰めさせてもらいたい。

(閉会・休会中の所管事項調査項目)

8月6日(金)

■ ジオパークの取り組みについて
■ ガス水道事業について